サメって どんな生きもの？ 上

昨年の夏、日本海でシュモクザメが発見され、鳥取県東部の海水浴場が一時遊泳禁止になるなど、被害に見舞われました。鳥取市では、今年の海水浴シーズンへ向けて行政機関・海水浴場関係者などが話し合い、サメ防護ネットの設置や監視体制の強化を取り決めました。

ところで、シュモクザメは本当に危険なのでしょうか。今回から二回にわたり、西海（さいかい）区水産研究所の矢野和成（かずなり）博士のお話を紹介します。

シュモクザメ（写真提供：鳥取県立博物館）

サメは、映画「ジョーズ」や「ディープブルー」の影響もあってか、どう猛なイメージを持たれています。確かにホホジロザメやイタチザメは、獲物を一飲みにしそうな大きな口や、ナイフのような鋭い歯を持っています。そのために多くの人たちは、サメを発見しただけで人間が被害にあうような錯覚を受けます。ところが実際にはほとんどのサメ類は人間にまったく危害を加えない無害な生き物であり、水中生活に適応した素晴らしい生き物であることはあまり知られていません。

サメ類は世界中に約四百種類、日本近海には約百三十種類が知られています。このうち、過去に人間に危害を加えた種類は約三十種類（日本近海に生息するものでは約二十種類）であり、死亡事故を引き起こすなどの特に大きな人的被害を及すのは、ホホジロザメ、イタチザメ、オオメジロザメの三種類です。これらはすべて日本近海に生息しており、ホホジロザメは固体数は少ないものの北海道から沖縄まで広く分布し、イタチザメとオオメジロザメは南西諸島周辺や小笠原諸島周辺などの熱帯海域が主要な分布域で、夏には本州の太平洋沿岸でもまれに漁獲されます。

ところで、これまでに世界中で起こったサメ類による被害記録がアメリカで整理されています。これによると一九九〇年から二〇〇〇年までの間で、世界中でサメ類による死亡事故は年間二件から十二件。このことからも、サメ類による人間への被害は非常にまれであることがわかります。

確かに種類によっては攻撃的なサメもいるため、予期しない事故が起こる可能性もあります。しかし、サメ類の生態を理解することで、事故発生の確率をさらに低くすることは十分に可能です。

昨年は遊泳禁止に……

〈次回はシュモクザメの生態についてのお話です〉